

平成25年度 事務事業評価シート

事業の概要	事務事業名	消防庁舎施設管理事業							担当部	消防本部						
	会計区分	一般会計			事業類型	法定受託系		担当課	消防総務課							
	事業期間	平成12年度以前			～	平成30年度以降		担当係	庶務係							
	総合計画 分野別計画	主目的	1 市民生活		5 消防・救急		1 消防力を強化する									
		副目的														
	予算区分	款	9		項	1		目	1		大	3		中	1	
	根拠法令・個別計画	消防組織法・水道法・小牧市職員安全衛生管理規程														
	目的 (対象をどの様な状態にするのか)	消防本部庁舎、消防署東支署、北支署、南支署庁舎の外観及び機能保持を図り、快適な職場環境の維持管理に努める。														
	内容 (手段)	<p>◆平成24年度実施内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 各庁舎施設の維持管理のため各種保守点検を委託した。 ガラス清掃委託(消防本部・東支署庁舎)。 庁舎害虫駆除委託(消防本部・東支署庁舎)。 冷暖房機保守管理委託(消防本部・東支署庁舎)。 消防用設備保守管理委託(消防本部・東支署庁舎(車両を含む)、南支署・北支署は車両積載消火器のみ)。 車庫シャッター点検委託(東支署・南支署・北支署)。 仮眠室カーペット洗浄委託(消防本部・東支署庁舎)。 消防事業所安全衛生委員会を毎月開催し、職場巡視結果を反映させ快適な職場環境を整備する。 <p>◆平成24年度直接経費の内訳</p> <p>需用費(10,127千円) 役務費(39千円) 委託料(2,069千円) (消防庁舎施設管理委託:309千円、消防庁舎設備保守管理委託:1,759千円) 使用料及び賃貸料(1,037千円) 原材料費(152千円) 備品購入費(302千円)</p> <p>◆平成25年度実施内容及び直接経費の内訳</p> <p>内容については、平成24年度と同様に実施する。</p> <p>需用費(10,777千円) 役務費(68千円) 委託料(2,495千円) (消防庁舎施設管理委託:323千円、消防庁舎設備保守管理委託:2,172千円) 使用料及び賃貸料(1,276千円) 原材料費(90千円) 備品購入費(550千円)</p>														
	受益者負担	無														

		単位	H22決算額	H23決算額	H24決算額	H25予算額		
コスト	費用	直接経費	千円	13,330	13,970	13,726	15,256	
		正職員	従事者数	人	0.40	0.40	0.40	0.40
			人件費	千円	2,132	2,132	2,132	2,132
		その他職員	従事者数	人	0.00	0.00	0.00	0.00
			人件費	千円	0	0	0	0
	費用合計	千円	15,462	16,102	15,858	17,388		
対前年比	%		104.1	98.4	109.6			
財源	一般財源	千円	15,462	16,102	15,518	17,061		
	国・県支出金	千円	0	0	0	0		
	その他財源	千円	0	0	340	327		

業	活動指標名	単位		H22	H23	H24	H25
	績	消防事業所 安全衛生委員会	回	目標	12	12	12
実績				12	12	12	
冷暖房機保守点検		回	目標	4	4	4	4
			実績	4	4	4	
消防用設備等保守点検		回	目標	2	2	2	2
			実績	2	2	2	
成果指標名	単位		H22	H23	H24	H25	
公務災害発生件数	件	目標	0	0	0	0	
		実績	0	0	0		
修繕等改修件数	件	目標	—	—	—	—	
		実績	12	15	12		

事業の自己評価	平成24年度の実施結果	事業の達成状況	消防事業所安全衛生委員会開催実績が目標値に達し、快適な職場環境の整備づくりにおおむね反映できた。公務災害発生件数「0」を継続維持している。	
		事業実施における課題	経年により、施設が老朽化等し修繕が多くなる。	
		事業を縮小・廃止したときの影響	事業を廃止することにより、快適な職場環境の継続ができなくなり、消防活動に支障が生じるおそれがある。事業を縮小した場合も同様である。	
	平成25年度の改善内容	25年度における事業の改善・見直し内容(新規追加事項、廃止・削減事項等)	現状を維持し、課題となる庁舎の老朽化に伴う職場環境の変化を定期的に点検し施設の維持、継続をする。	
	平成26年度の事業の方向性	方向性の判定	維持	事業のボリュームを現状規模で維持すべきもの(対象や手段を見直す場合も含む)
	判定理由	現状どおり事業を継続することにより、快適な職場環境づくりが維持でき、円滑な消防活動につながる。		
	26年度以降の改善案	今後においても、現状のとおり定期的な点検を維持し、老朽化等に伴う施設の不備箇所等があれば、必要に応じ早期に対応していく必要がある。		

二次評価	方向性の判定	判定理由
	維持	一次評価のとおり。